

# 赤十字NEWS

Japanese Red Cross Society NEWS

APR.2023.#995

# 4

## 赤十字は、動いてる!

### + SAVE365

Japanese Red Cross Society

地域の防災や  
命と健康を守る活動に参加



赤十字  
ボランティア

赤十字  
ボランティア  
114万人

日本赤十字社  
公式アンバサダー  
就任!

上白石萌音さん  
就任コメントは  
中面をCheck!▶

日赤救護班  
485班  
(4954人)



救護班

全国91病院から  
発災時に出勤!  
日頃から訓練を実施

誰かのために自ら  
気づき、考え、実行する  
若者を育成する



青少年赤十字

青少年赤十字  
(JRC)  
1万4441校  
349万人

C  
O  
N  
T  
E  
N  
T  
S

**特集**  
赤十字は、動いてる!SAVE365  
発災時、すぐにチームを派遣!  
日赤救護班とは? ..... 2

**新連載スタート**  
献血の歴史やトリビアが満載!  
献血なるほどヒストリー  
..... 5

**TOPICS**  
「関東大震災100年 温故備震」のご案内/  
救急法のボランティア講師が誕生!/  
赤十字運動月間がスタート ..... 4

**AREA NEWS**  
秋田|トルコ・シリア地震救援金  
スポーツ選手から感謝の声/  
他 ..... 6

**WORLD NEWS**  
トルコ・シリア地震災害続報  
..... 8

Present!!

日本赤十字社 公式キャラクター  
「ハートラちゃん」を  
プレゼント!

ハートラちゃん  
ぬいぐるみ(小)

**2名様**  
詳しくは  
P.7をCheck!▶



特集

赤十字は、動いてる! SAVE365

発災時、すぐにチームを派遣! 日赤救護班とは?

SPECIAL FEATURE



医療施設運営や血液事業など、日本赤十字社が行うさまざまな事業の中でも、中核を担うのが「国内災害救護」。今回は、日常の備えから災害発生時の活動まで、実際に現場で働く医師・看護師の話や、活動実績を基にご紹介します。



311で「このころのケア」の大切さを再認識

CHANGE HERE!

SOSを敏感にキャッチする地域密着の活動を

その時、日赤はどう動く!?

救護班のメンバー構成とは?

日赤の災害救護業務は大きく5つ、①医療救護、②救援物資の備蓄と配分、③災害時の血液製剤の供給、④義援金の受付と配分、⑤その他災害に必要な業務(防災ボランティアによる活動や外国人の安否調査)が挙げられます。①の医療救護を行う上で、重要な役割を担うのが、「救護班」。その基本編成は、医師1人、看護師長1人、看護師2人、主事(管理要員)2人の計6人。それに加え、必要に応じて薬剤師や助産師、このころのケア要員の帯同が可能とされています。普段は、「救護班」は全国に91ある日赤の病院と各都道府県支部に常時設置され、有事に備えます。その役割は、1人でも多くの人命を救助することに加え、被災地の医療機関の機能が回復するまでの空白を埋めること。「被災地に一番長く寄り添う」ことを指針として、2011年の東日本大震災では、約6カ月間、現地で救護・支援活動を実施しました。

救護班の主な活動は?

救護班の主な活動は、「応急医療」「助産」「巡回診療」などがあります。被災地に出動すると、災害対策本部などと連携・調整し、けがをした人の治療の他、避難所を中心とした被災者の巡回診療、現地の病院業務の支援などを行います。近年では、被災した方たちへのこのころのケアも重要な活動であり、専門医師だけでなく、看護師やボランティアもその役割を担います。積極的に被災者の話に耳を傾け、必要なケアを通じて、自分の力で立ち上がるための手助けを行っています。救護班による救護活動の他、救援物資(毛布、安眠セット、緊急セットなど)の配布や緊急仮設診療所となるdERU(domestic Emergency Response Unit/国内緊急型対応ユニット)の設置なども、救護活動の一環として日赤が担っています。



いつ起こるか分からない災害に備えて「救護班」を常備

日赤の災害救護活動の歴史は、1888(明治21)年に起きた福島県磐梯山噴火災害にまで遡ります。それまでは戦時救護の対応のみでしたが、噴火の一報を受け、急きょ災害時の救護員派遣を検討。当時の皇后陛下(昭憲皇太后)からの後押しもあり、医師の派遣を決定しました。これが、日赤として最初の災害救護活動です。赤十字病院が誕生したのも、実は救護員養成のため。1901(明治34)年には「天災救護規則」が定められ、災害時には救護班が派遣されるようになりました。なお現在は、全国485班(約5千人/2022年4月1日現在)の救護班が、病院での業務を行いながら、研修や訓練を通じて、災害救護に必要な知識や技術を身に付け、発災時にいち早く駆け付けて救護活動ができるように体制を整えています。



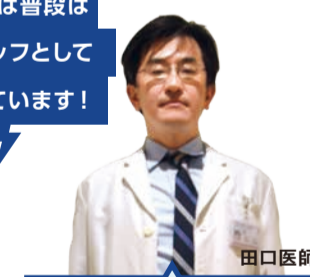
突発的な災害に対応するための指揮系統の確立

日赤では、47都道府県全てに支部を有します。その支部をエリアごとに6つのブロックに分け、各ブロックに代表支部(宮城・東京・愛知・大阪・広島・福岡)を設置。代表支部は、ブロック内の調整役として、有事において、本社や他ブロックからの支援要請などの指揮官としての役割を担います。



NORMALLY EMERGENCY

しかし、災害時に救護業務を主体となって行うのは、被災した地域の支部。本社でも、ブロック代表支部でもなく、被災したその地域の支部が、救護体制の指揮命令を担うこととなります。自支部で対応が困難なときは、同一ブロックの代表支部への支援要請、さらには、本社への支援要請と、災害の規模に応じて支援の輪を広げていきます。各支部には、救護に必要な各種車両や無線、テントや照明機器などの物的リソースの他、救護班をはじめ、このころのケア要員や原子力災害医療アドバイザーなど、多彩な人的リソースも有し、災害に備えています。



救護班メンバーは普段は病院スタッフとして活動しています!

救命救急センター勤務などを経て、現在は業務支援を行う看護師長としてサポートが必要な科の支援や院内調整に従事。救護班研修の企画チームにも所属しています。

Profile 日本赤十字社医療センター 看護部 看護師長 園田 祐子さん 大学病院勤務を経て、1996年から東京・広尾にある日本赤十字社医療センターに勤務。

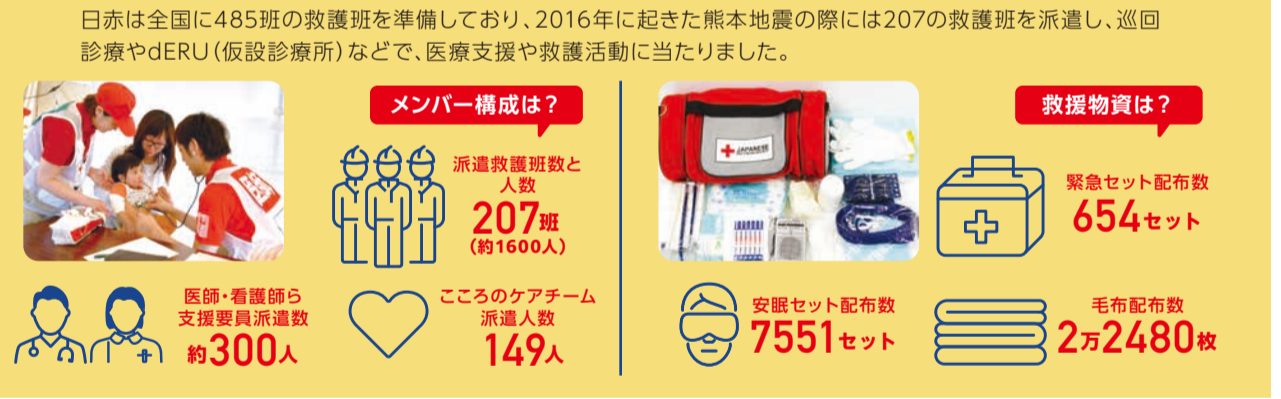
救護班として最初の派遣は2011年の東日本大震災。発災後2時間未済で都内から出動。救護班研修で先輩たちの体験談から学んだ赤十字らしい活動を自分ができるか不安でした。ある避難所を訪れたとき、私たちが赤十字であることを知った被災者から「このころのケアをお願いします」と。そこは住民の半数近くが津波で亡くなった地域。生き残った方たちも大切な人を亡くしたばかりでした。このとき、このころのケアの重要性を痛感しただけでなく、日赤がこのころのケアを行うと認知されていることや、赤十字マークを付けた救護班には壁を作らずに声をかけてくださる、という事実が驚きました。地域ごとで日頃から日赤が積み重ねてきた活動の成果だと思っています。なお、救護班は被災地に入った職員だけで活動しているわけではありません。その職員が扱った病院の業務をみんなでカバーするなど、病院全体で救護活動を行っています。

Profile さいたま赤十字病院 高度救命救急センター長兼 救急部門第一救急部長 田口 茂正医師 2006年からさいたま赤十字病院に勤務。2015年関東・東北豪雨災害や2016年熊本地震など災害時に全国で活動。

実は元々DMATとしても活動していますが、日赤救護班として誇りを持つようになったのは東日本大震災から。発災当日にDMATとして仙台に入ったものの救命救急のニーズが少なく待機。すると日赤の救護班に声がかかり、避難所に向かうことになりました。そこで状況は一変。避難所には医師を必要とする方であふれていたのです。それから半年後、研修で日赤救護活動の全貌を知りました。22万人の命を預かった石巻赤十字病院の奮闘。どの団体よりも早く・長く続けた地道な支援活動。命と健康を守るべき対象はがれきの下にはいるとは限らない…。以来、大きな災害が起きるたび、時に悔しい思いもしつつ日赤救護班としても活動しています。私たちの強みを挙げるならば、日赤支部は47都道府県にあり、地域赤十字奉仕団や市町村とのつながりによって被災者のSOSが届きやすく、どこよりも早く動き出す救護団体、ということです。

achievements

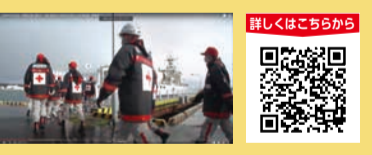
2016年 熊本地震のときはどんな活動をした?



YouTube During Delivery!

動画配信中! 「大規模災害に備えて〜海上保安庁と日本赤十字社との合同訓練(宮城県)〜」

日赤は海上保安庁と協定を結び、首都直下や南海トラフなどの大規模な地震が発生した際、赤十字病院の救護班や救援物資を巡視船で被災地に輸送する体制をとっています。 https://youtu.be/mnSYIZAiNbw



年間キャンペーン

2023年度、日赤は「赤十字は、動いてる! SAVE365」と銘打って、かけがえのない日常を支え続ける日赤の活動を伝えていきます。なお、本キャンペーンのアンバサダーには俳優の白石石萌音さんが就任しました。



白石石萌音さん 日本赤十字社 公式アンバサダー 就任!

Profile 白石石萌音(かみしらいし・もね) 映画「舞妓はレディ」「君の名は。」、ドラマ「カムカムエヴリバディ」、舞台「千と千尋の神隠し」などに出演。歌手やモデル、俳優などでも幅広く活動。2024年には主演映画「夜明けのすべて」が公開予定。

就任コメント

はじめまして、この度日本赤十字社のアンバサダーを仰せつかりました、白石石萌音です。日本赤十字社さんとのご縁の始まりは2022年、CMのナレーションをさせていただいたことでした。まだまだコロナが猛威を振るっていて、世の中も、自分の心も停滞してしまっていたところに、立ち止まらず動き続けて

いる皆さんの存在を知りました。とても心動かされ、励まされたことを覚えています。多くの方が、あの時の私のように皆さんの活動に勇気づけられることを願って、精一杯務めさせていただきます。どうぞよろしく願い申し上げます。

TVコマーシャルにも登場!

キャンペーンのTVコマーシャルにも白石石萌音さんが登場。赤十字救急法の普及活動の現場、大規模災害に備えた備蓄倉庫、命を守る防災セミナーなどを見学し、「赤十字は、動いてる!」と白石石萌音さん自身の思いを込めてメッセージを語ります。映像には実際に現場で活躍する日赤職員らも登場。今日も明日も明後日も、活動を止めない赤十字の使命と実践の姿を映像を通じて伝えます。

キャンペーンポスター

赤十字は、動いてる!



# T P I C S



## 1 TOPICS

ふる たず  
故きを温ね明日に備える

### 企画展 「関東大震災100年 温故備震」

1923年に起きた関東大震災から100年となる今年、赤十字情報プラザでは、当時のさまざまな記録を振り返る企画展を開催します。震災の被害やそこで多くの困難に立ち向かった人々の姿、赤十字の救護活動をはじめとする取り組みを見つめることで、来たる災害に「**備えよ!**」というメッセージを受け取る貴重な機会となります。



絵画：五姓田芳柳（二世）  
「関東大震災当時の宮城前本社東京支部臨時救護所の模様」  
（日本赤十字社東京都支部所蔵）

1923年9月1日に起きた関東大震災は、火災や津波、土石流など各地で大きな被害を生みました。被災地域は関東を中心に広範囲に及び、死者行方不明者約10万5千人、被災者約340万人、37万棟以上の建物が失われる未曾有の大災害となりました。その状況において生き延びた人々のなかには、重傷者や病人をはじめ治療や支援を必要とする人が多く存在し、同時にそこには彼らを救うために奮闘した日本赤十字社の姿もありました。本展示では、日赤に残る貴重な資料を基に、多くの被災者が集まった避難所の様子、全国の支部や病院から結集した救護班やボランティア（篤志看護婦人会）の活動、伝染病の予防、世界からの支

援など当時の救護活動を振り返ります。なお、本企画展は日赤本社赤十字情報プラザのほか赤十字WEBミュージアムでもご覧いただけます。



震災当日に設置した皇居前救護所内で傷病者を治療



津波被害を受けた千葉県救護所

開催概要

開催期間／2023年4月4日～2024年3月28日  
開館日／火・水・木曜日10:00～16:30 (12:30～13:30閉室)  
お問い合わせ／赤十字情報プラザ 03-3437-7580 ※事前予約制  
所在地／東京都港区芝大門1-1-3 日赤本社1階  
**赤十字WEBミュージアム** <https://www.jrc.or.jp/webmuseum/column/>

## 2 TOPICS

### 救急法のボランティア講師が誕生!

日赤の各支部では、指導員が市民に救急法を普及する活動をしています。その指導員を“指導”する資格が、「**赤十字救急法講師**」です。ボランティア指導員で、初めて「講師」資格試験に合格したお二人に話を伺いました。

interview

自分の指導によって  
救急法の裾野が広がるよう、  
力を尽くしたい

山本隆之さん  
48歳／京都府警察官



京都府支部

府民の安全を守る交番のおまわりさんになろうと警察官を目指したら、配属されたのは災害現場。人命救助と向き合う日々の中で、命の重みを痛感し、「**救急法を一人でも多くの人に伝えたい**」という思いで指導員の資格を取得したのが、救急法指導員になったきっかけです。今回講師に合格したことで、改めて、救急法の普及に貢献できる喜びを感じています。

救急法講師の仕事は、「**人の命を助ける**」という点で、警察官の仕事とも重なる部分が多いと思っています。それぞれの現場で得た知識や経験を、相互にフィードバックすることもできるので、相乗効果を感じることも多いです。私にとっての“ライフワーク”と言ってもいいかもしれません。受講された方から、「**受講して良かった!**」という言葉をいただくのがやりがいも感じますし、一方、時には受講後のアンケートで「講座が面白くなかった」と書かれることも……。そんなときは「**次こそは!**」と奮起し、受講生に楽しんでもらえる要素も盛り込もうと工夫しています。

私が100人に救急法を伝えれば、その100人がまた次の受講者に伝えて……と、どんどん裾野が広がっていく。そう考えるとワクワクしますね。講師として、これまで以上に受講生に楽しく学んでもらえるような講義を提供していきたいと思っています。



interview

人の命を救うという  
素晴らしい知識を  
もっと普及させたい

大林紀雄さん  
61歳／会社員



和歌山県支部

私はこれまで、赤十字安全奉仕団の一員として、一般の方に対して救急法の指導をしてきました。今回、その指導員を育成する立場である講師として、ボランティアにも活動する機会を与えてくれたことに感謝しています。

平日は会社員として働きながら休日にボランティアで救急法の指導をする。周りからは「**大変じゃないか?**」と心配されることもありますが、私自身は活動にやりがいと楽しさを感じているので、いいリフレッシュになっています。人との接し方や物事の捉え方など、ボランティア活動の経験が仕事にプラスになることも大いにあります。でも実は、職場の同僚にボランティア活動をしていることを伝えたのは、ここ1～2年のこと。IT通信業界で働いており、「**ボランティアをする余力があったら、仕事に集中してほしい**」と考える人もいるのではないかとちゅうちょしていましたが、実際に話してみたら深く理解してくれました。会社では、営業所の責任者として忙しい毎日ですが、仕事とボランティアは両立できるものです。職場以外にも自分を生かせる場やつながりがあるということは、ライフステージが変化する中でも意味があること。私のような会社員が活動することで、ボランティアも、指導員も、広く門戸が開かれていることを伝えていけたらいいですね。救急法は人の命に関わるとても素晴らしい知識。少しでも興味があったら、ぜひ勇気を持って挑戦してほしいです。

3

TOPICS

# 赤十字運動月間 2023年5月1日～31日

365日、日赤が活動が続けるのは何のため?

毎年5月は「赤十字運動月間」として、赤十字活動への理解を深めていただき、活動への参加と支援を呼びかけています。日本赤十字社は救護団体として誕生しました。災害の被災地における救護活動の他にも、命を救う・命を守るための知識や技術の普及、地域に根差した活動を行うボランティアや青少年の育成、海外で発生した人道危機への支援など、365日、それぞれの場所で動き続けています。全ては、人間の命と健康、尊厳を守るため。全てが、人を救うことにつながっている活動です。赤十字運動月間は、これらの取り組みを伝えるために、TVコマーシャルや雑誌とのコラボレーション、SNSキャンペーンなどを展開します。この機会に日赤の活動へのご参加、ご支援をよろしくお願いいたします。



■赤十字運動月間ポスター



本年度の赤十字運動月間ポスターには、自身も社会貢献活動に関心のある俳優の上白石萌音さんが登場。

■リーフレット



リーフレットやWEBサイト、雑誌など各種媒体を通して日赤の活動を発信。

■コマーシャル(15秒/30秒) 動画



上白石萌音さんの視点で伝える、365日の赤十字活動。

キャンペーンの詳細は日赤のWEBサイトでご案内します  
<https://www.jrc.or.jp/>

4/26 公開予定

column

献血の歴史やトリビアが満載!

## 献血なるほどヒストリー

vol.1

献血にまつわるさまざまなエピソードを紹介する連載コーナー。第1回は、第二次世界大戦後、米国赤十字社の支援を受けて誕生した「血液銀行」のお話です。

### 戦後混乱期、「輸血事故」が頻発 日赤は「血液銀行」を開設

1945年8月の終戦後、社会全体が未曾有の混乱に陥っていた日本では、輸血においても規制のない「放任状態」となり、命を救うために行った生血輸血・枕元輸血(※)で深刻な病気に感染する事例が頻発しました。

1948年11月、東京大学医学部付属病院小石川分産婦人科で生血輸血による梅毒感染が発生。損害賠償、業務上過失傷害の告訴問題にまで発展して社会の注目を集め、GHQ(連合軍総司令部)からは厚生省と東京都に対して輸血対策への指示が出されます。時を同じくして、日本の復興のため、戦後さまざまなリソースを提供してい

た米国赤十字社から「血液事業を日本赤十字社が行うならば、必要な機材・資材の援助は惜しまない」と申し入れが。米国赤十字社は米国内で輸血金庫事業(血液バンク)を展開しており、1947年からは各地方血液センターの設立計画を進めていました。日赤は調査のために輸血の研究者を米国に派遣。その調査結果を踏まえて準備を進め、米国赤十字社の協力も得て、1952年4月、日本赤十字社東京血液銀行(通称)開設。相互扶助の精神に基づく日赤血液事業のはじまりであり、現在の安全な献血システムに至る礎となりました。



1952年、日本赤十字社東京血液銀行が開設

※「生血輸血・枕元輸血」とは

寝ている患者のベッド近くに血液の提供者を寝かせ、提供者から注射器に採血した血液をただちに患者に輸血する方法。現在は行われていない。

# AREA NEWS

エリアニュース

全国各地、あなたの生活のすぐそばで日本赤十字社の活動は行われています。

## 山形 他県の方もぜひ、ご活用を！ 小・中・高校生と奉仕団が コラボして「防災かるた」制作

日赤山形県支部では、JRC（青少年赤十字）創設100周年を記念し、「青少年赤十字防災かるた」を制作しました。これは、児童・生徒の防災意識と、新型コロナウイルスなど感染症への課題意識、さらにはJRC活動への参加意識を高めることを目的としたもの。制作にあたっては、100周年事業の取り組みのひとつである「賛助奉仕団とのコラボレーション」として、読み札をJRC小学生メンバーと賛助奉仕団員が協働して制作。また、絵札は、中・高校生と特別支援学校生徒のJRCメンバーが豊かな感性を生かして描きました。このかるたは、二次元コード、もしくは左記URLにて、誰でもダウンロードが可能。楽しみながらの防災意識向上にご活用ください。

詳しくはこちらから

一度だけはおわらない

[https://www.jrc.or.jp/chapter/yamagata/about/topics/2023/0213\\_030677.html](https://www.jrc.or.jp/chapter/yamagata/about/topics/2023/0213_030677.html)

## 神奈川 ご支援を受け点字プリンターを整備 奉仕団の作業が快適に

日赤神奈川県支部では、公益財団法人JKA\*の競輪公益資金から、775万5千円の補助を受け、県内7つの赤十字奉仕団に1台当たり100万円相当の点字プリンターを計10台整備しました。旧プリンターは経年劣化により故障が多く、動作音も大きいため活動中にストレスがありましたが、たちまち快適に。視覚障害者が生活に必要な各種情報を提供するサービスが充実し、迅速な対応が可能になりました。赤十字奉仕団からは、「故障で作業が中断する心配もなくなり、新しい機械は大変使いやすい。これからも視覚障害者のニーズを捉えて、奉仕団員一丸となって活動していきたい」「音が静かで、他の施設利用者に気兼ねなく、作製に集中できる」など喜びの声が届いています。

\*Japan Keirin Autorace Foundation

## 秋田 トルコ・シリア地震救援金 スポーツ選手から感謝の声

2月24日、バスケットボール男子Bリーグ1部、秋田ノーザンハピネッツのケレム・カンター選手（トルコ出身）と同チーム代表者が日赤秋田県支部を訪れ、トルコ・シリア地震救援金の贈呈式が行われました。この寄付は、2月上旬のホーム戦会場で、カンター選手をはじめ選手らが直接来場者に募金を呼び掛けたもので、114万5414円が集まりました。カンター選手は「日本の方々のサポートが本当にうれしい。温かい言葉をかけていただき、募金にも協力してくれた方々に感謝の気持ちを伝えたい」と語りました。

## 東京 無料アプリで誰でも楽しめる メタバース空間で学ぶ、防災・減災

3月10日から5月31日まで、日赤東京都支部では防災・減災を目的とした初のVRコンテンツ「あ！地震。あなたならどう脱出する？～メタバース地震体験～」を公開。バーチャル新宿を舞台としたスマートフォン向けアプリ「REV WORLDS」（提供：三越伊勢丹）にて配信中です。家具が倒れて動線がふさがれた部屋の中から、避難グッズを持っていかに短時間で外に避難するか、など、アバター（自分の分身）を操作して、地震の備えについて、遊びながら学ぶことができる画期的な試みです。

詳しくはこちらから

\*「REV WORLDS」サイトからアプリが無料でダウンロード可能です

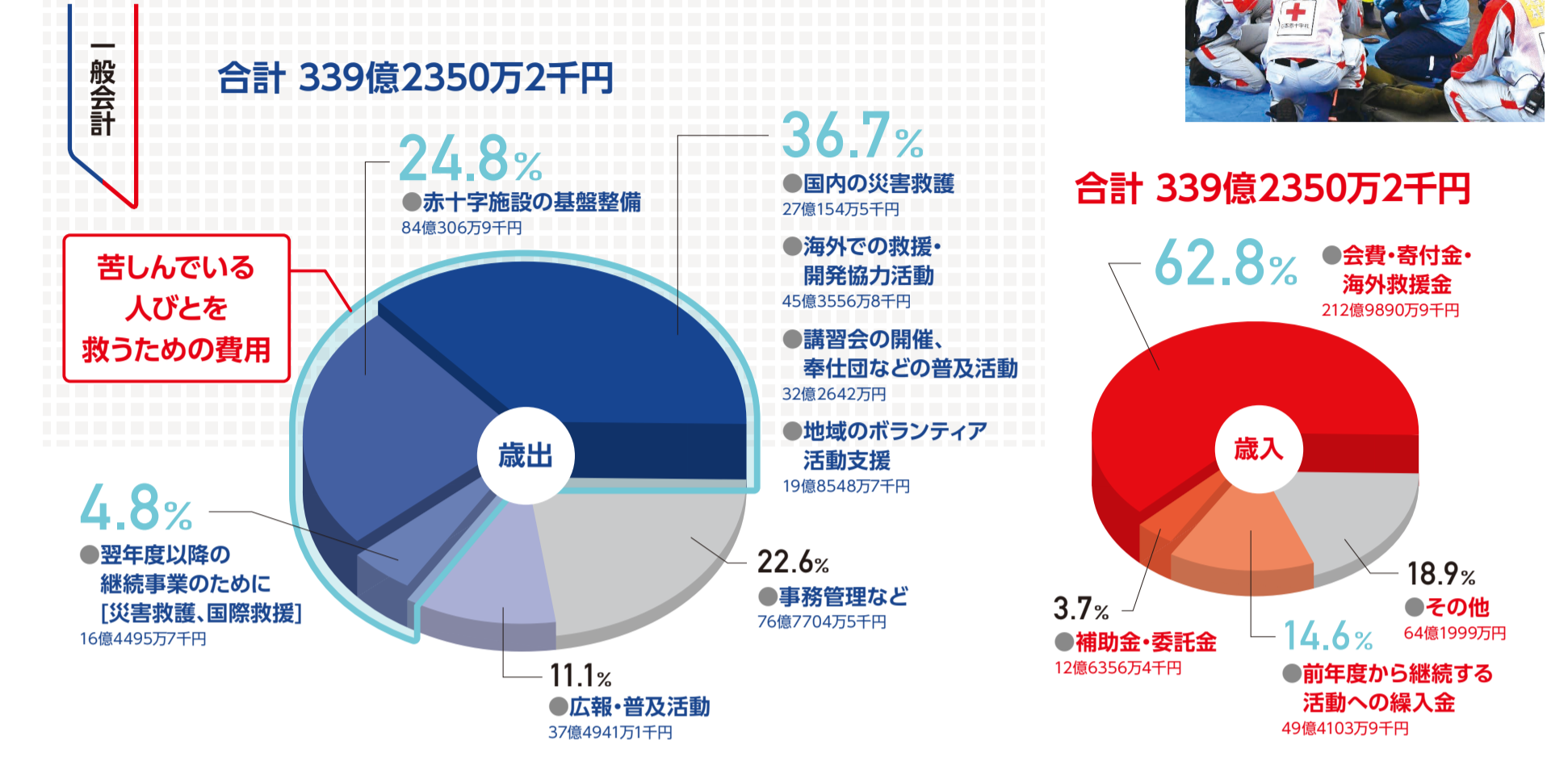
## 京都 今年初の水安講習 80歳の指導員も参加

2月12日、日赤京都府支部に所属する赤十字水上安全法指導員の研修会を京都踏水会水泳学園で開催しました。同学園長でもあり、ボランティアで赤十字水上安全法講師を務める浅井久照さんを中心に、昨年12月に新たに指導員となった3人が加わり、総勢16人が参加。水の安全や溺者救助に関する知識と技術の更なる向上を目指して取り組みました。指導員の中には、御年80歳を超える岸田庄司指導員の姿も。「コロナ禍でオンライン研修が多かったが、久しぶりに大勢で集まれて楽しい研修でした。水上安全法講習の受講者、そして指導員を増やしていきたいので、年1回といわず、2回でも3回でも学びの機会をいただきたい」と、頼もしい感想をいただきました。

# BUDGET SUMMARY

## 令和5年度 予算概要

日本赤十字社は災害救護活動や国際救援活動をはじめとして、さまざまな事業を展開しています。それぞれの事業によって財源は異なり、全国の個人・法人の会費および寄付金などを主な財源とする「一般会計」と、各事業での収益を財源とする「特別会計」があります。



常任理事会開催報告	理事会開催報告	代議員会議議結果報告																									
<p>令和5年2月21日、令和4年度第10回の常任理事会が開催されました。その結果は下記のとおりです。</p> <p>記</p> <p>1 理事会及び第101回代議員会に付議する事項について（役員の選出、令和5年度事業計画、令和5年度収支予算）</p> <p>審議の結果、上記については原案のとおり理事会及び第101回代議員会に付議することが了承されました。また、トルコ・シリア地震への対応について報告しました。</p> <p>令和5年3月16日、本社において令和5年度第11回の常任理事会が開催されました。その結果は下記のとおりです。</p> <p>記</p> <p>1 理事会に付議する事項について（1）規則の改正について（日本赤十字社本社組織規則、日本赤十字社社会福祉施設規則）</p> <p>審議の結果、上記については原案のとおり令和5年3月17日開催の理事会に付議することが了承されました。また、第二次中期事業計画におけるマスメディア×リアル統合コミュニケーションの展開について報告しました。</p>	<p>令和5年3月17日、全国社会福祉協議会会議室（新霞が関ビル）において令和5年度第3回目の理事会が開催されました。審議結果は下記のとおりです。</p> <p>記</p> <p>1 規則の改正について（日本赤十字社本社組織規則、日本赤十字社社会福祉施設規則）</p> <p>2 第101回代議員会に付議する事項について（役員の選出、令和5年度事業計画、令和5年度収支予算）</p> <p>審議の結果、規則の改正については原案のとおり議決され、第101回代議員会に付議する事項については、原案のとおり第101回代議員会に付議することが了承されました。また、常任理事会の理事の互選が行われ、渡邊芳樹、守谷祐志、小田部卓、菊地豊、木谷聡一、尾田一壽、杉原正晴の各氏が選出されました。なお、執行会議の理事については、田中康夫、紀野修一が新たに指名されました。また、社長が決定した補正予算及び諸規程の一部改正について報告しました。</p>	<p>令和5年3月17日、全社協・灘尾ホール（新霞が関ビル）において開催した第101回代議員会における審議結果は下記のとおりです。</p> <p>令和5年4月1日 日本赤十字社</p> <p>記</p> <p>第1号議案 役員の選出について 理事15名及び監事1名が次のとおり選出されました。</p> <table border="1"> <tr> <td>理事</td> <td>渡邊芳樹</td> <td>田中康夫</td> <td>紀野修一</td> <td>野口良孝</td> </tr> <tr> <td></td> <td>小田部卓</td> <td>大坪紘子</td> <td>最上重夫</td> <td>田谷正</td> </tr> <tr> <td></td> <td>水野光二</td> <td>菊地豊</td> <td>勝山正昭</td> <td>中谷博昭</td> </tr> <tr> <td></td> <td>木谷聡一</td> <td>野々内さとし</td> <td>小田切泰樹</td> <td></td> </tr> <tr> <td>監事</td> <td colspan="4">脇本潤一</td> </tr> </table> <p>第2号議案 令和5年度事業計画について 原案のとおり議決されました。</p> <p>第3号議案 令和5年度収支予算について 原案のとおり議決されました。</p>	理事	渡邊芳樹	田中康夫	紀野修一	野口良孝		小田部卓	大坪紘子	最上重夫	田谷正		水野光二	菊地豊	勝山正昭	中谷博昭		木谷聡一	野々内さとし	小田切泰樹		監事	脇本潤一			
理事	渡邊芳樹	田中康夫	紀野修一	野口良孝																							
	小田部卓	大坪紘子	最上重夫	田谷正																							
	水野光二	菊地豊	勝山正昭	中谷博昭																							
	木谷聡一	野々内さとし	小田切泰樹																								
監事	脇本潤一																										

## Present!! 日本赤十字社 公式キャラクター「ハートラちゃん」をプレゼント!

プレゼント希望者は、以下の項目を明記のうえ、郵送・WEBでご応募ください。

①お名前 ②郵便番号・ご住所 ③電話番号 ④年齢 ⑤赤十字NEWS4月号を手にされた場所(例/献血ルーム) ⑥4月号に関するご意見・ご感想

※ご応募いただいた個人情報はプレゼントの発送および弊社からのお知らせのみに利用いたします

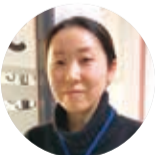
郵送/〒105-8521東京都港区芝大門1-1-3  
日本赤十字社 広報室 赤十字NEWS4月号プレゼント係  
WEB応募/右の2次元コードからご応募ください。

4月28日(金) 必着  
※当選者の発表はプレゼントの発送をもって代えさせていただきます

ご応募はこちらから

ハートラちゃんぬいぐるみ(約) 2名様  
高さ10cm

いつでも自立!



芳原みなみ  
(ほうばら・みなみ)  
トルコ派遣要員/  
日本赤十字社  
国際部企画課研修係長



松永 一  
(まつなが・はじめ)  
シリア派遣要員/  
日本赤十字社  
中東地域代表部首席代表



トルコ共和国、シリア・アラブ共和国ってどんな国？

今回のトルコ・シリア地震の被災地には、耐震基準を満たしていない建物がある地域や、複雑な政治的背景や紛争の影響で支援が届きにくい地域が多く存在し、必要な支援の内容が多岐にわたることで、国や地域を越えたさまざまな形の支援が求められています。



# トルコ・シリア地震災害続報

## 一人でも多くの人を救うために国際的な協力が急務

**被災地の切迫した状況下で  
真に寄り添う支援が問われる**

2023年2月6日にトルコ南東部のシリア国境付近で発生した地震とその後の余震によって、数百万人が家を失い、現在も避難生活を送っています。2月は気温が氷点下まで下がることもあり、厳しい寒さへの対策も急務でした。また、シリア北西部の被災地は長年にわたる紛争や経済制裁の影響によって、さまざまなインフラが脆弱な状態にあり、支援を行うこと自体が困難なケースも数多くありました。そのような状況下で、トルコ、シリア両国の赤新月社（イスラム圏の赤十字社）および国際赤十字が総力を挙げて支援に尽力しています。今回は、現地で支援調整に奔走する日赤の職員2人に、被災地の状況とニーズへの対応、これからの見通しを聞きました。

**多くの難民を受け入れてきたトルコ  
被災しながらも支援を続ける**

現在、トルコ赤新月社の5千人以上のスタッフとボランティアが救援活動を続けています。住居を失った人々が宿泊できる7万5千張りのテントを設置、10万7500枚の毛布をはじめとする救援物資や、4400万本の水、540万本のお茶などの飲料を配布した他、400台のキッチンカーを用いて被災者に1億2千万食の食事やスープなどを提供しました（3月7日時点）。また乳幼児用のおむつなど各種衛生用品の配布や不安を抱える被災者のこころのケアなど、さまざまなニーズ

に応えながら支援しています。同国に派遣され、支援活動の連絡調整に携わる日赤職員の芳原みなみさんは語ります。

「トルコは世界で一番難民を多く受け入れている国で、国内には370万人の難民がいます。今回の地震で最も被害が大きかった地域は、震災前から近隣国の難民を受け入れていて、トルコ赤新月社や国際赤十字と共に地域に根差した活動を続けているところです。同社のスタッフやボランティアは、災害発生直後から支援活動を開始していますが、**自分たちも被災者であり、自身や家族が困難な状況でも活動し、少しでも役に立っていると感じることで気持ちを保っている**と話す人もいました。現地では寒さに耐えるための冬用テントや食事、現金給付など、直近のニーズを満たすことに加えて、さらに長期的な支援が求められます。トルコ赤新月社が被災した方々に寄り添った活動を継続できるよう、日本の皆さまにも引き続き心を寄せていただきたいです」

**紛争で疲弊し、困窮するシリア  
「複雑な事情」を乗り越える支援**

一方、シリアでは12年に及ぶ紛争の影響により、インフラ（給水設備や医療施設など）が破壊されていて、がれきを撤去する重機も不足しています。発電や車両に必要な燃料の不足もあり、救援活動を行うこともままなりません。また、シリア北西部では政府と反体制側の戦闘が続いており、人道支援団体もアクセスが難しい状況です。シリア赤新月社は、負傷者の救助や巡回診療、医薬品の供給

などの支援を行うと同時に、全ての被災者に支援が行き届くよう、国際社会に対して経済制裁の一時的な緩和といった人道的な措置を行うことを呼びかけています。

**必要なのは長期にわたる支援  
どうかシリアの状況に関心を**

日赤中東地域代表部首席代表の松永一さんは、次のように述べています。

「燃料の調達が難しいことで、以前からシリア赤新月社が行ってきた巡回診療の回数が減ってしまい、また電力不足によって医療施設の運営もままなりません。そのなかでも同社ではスタッフとボランティア約4千人が活動をしており、震災後、250万人以上に支援を届けました。ただ、それは被災者の一部。紛争によってアクセスできない地域の人々をどうやって支援するかという課題においては、赤十字が掲げる中立が試されています」

思想や民族、国を越えて人を救うために動けることは赤十字の強み。松永さんは日本の支援者にこう語りかけます。

「他の支援団体との連携を図りながら、より多くの人に支援を届けられるよう、私たちはできることをやっていきます。**日本の方々には引き続きの支援と、今一度この地域の現状に関心を持っていただくことを心よりお願いいたします**」

日赤では、今後も現地の赤新月社や国際赤十字と連携を図り、トルコ・シリアの被災地支援に取り組んでいきます。



被災者に食事を提供するスタッフ©トルコ赤新月社



トルコ赤新月社の職員から救援活動の説明を受ける各国赤十字社スタッフ©トルコ赤新月社



崩壊したビルの現場で救援活動にあたるシリア赤新月社のスタッフ©シリア赤新月社

最新の海外支援状況、  
寄付受け付けのご案内

「トルコ・シリア地震」  
赤十字の対応はこちらから >>>  
<https://www.jrc.or.jp/>



「ウクライナ人道危機」  
特設サイトはこちらから >>>  
<https://www.jrc.or.jp/lp/ukraine/>

